

野際より。一刀三股小破墜され。悲哀しや。忠憤我烈の英雄也。これあ
 らば。立持るべき。朽する大樹の倒る如く。天相小撞と勝ぶとあり。我曰。天
 又去。清菟倚て。惜や首試搔頭。うり。 は後安田作主清ハミミと海軍ハ由良小助とあり
在たりしが秀吉天下に主する成りて世我をれ
名をとりて大野源左衛門と改名し九死ありたれ 備前大將信長公也。後堂出
るも面小撞物の發せしむり自ら首をひて死すとあり と嘗てせむひ。四方の閻門も火を放ちて。そのあか不投むひ。沂生害成を
 まりくける。逝年四十九歳。まておろく。嗚呼。悲哉。天正十年六月二日
 世も如何なる悪凶日ぞや。過昔天文の初 信長公ハ天文三年 甲午に誕まらる。今天正十
 年六月まで。海内小縦横しむひ。衣威を公の随ふ奮ふ。天下に崩れ
 せ。頑強め。庶民城塗炭の中に救ひみ。歳七道の敵國も。その英名を聽と
 した。天魔鬼神の縁くに。悲畏。証ざる。半の降る。半多あり。沂身ハ三位
 右大臣に昇進し。大業既小成。然るべきを。逆賊光秀がたぬ小絨せしれ

多ひし。あそ。朽滅といふもあろうあり。沂傍小在合。を士扈從倭。沂尊
 駭み。茶毗具を蔽掩せむ。を。四方より火攻りて。其傍に座を連珠。胆十
 文字に。莖到て。會齊一小火に。祀投り。殉死せしことを。哀哭ありたれ。遠胸猶
 も。沂所方小く。毆殘され。る。多士軍九十餘人。遠場那庭に。踏止し。鱗身小
 ありて。若我せし。大書院。多。沂寐不造。炎。餘くと。燃熾り。天衢も。沖る。許
 此。見ゆ。を。別。才の。主君の。沂生害し。く。と。察し。ま。め。を。各。敵と。逆
 刺。一個も。殘ら。ば。我死して。忠我。小。其。名。義。轟。せし。ハ。嘆。ま。ぶ。賞。す。處。し

繪本豊臣勲功記五編卷之七終